

ウラジオストク滞在に関する報告について（7月分）

1. ロシア語学校について

6月に引き続き、授業日程を終了し帰国する生徒が多く見受けられます。また、この期間に帰省のため一時帰国する生徒もあり、大学内は閑散としています。

生徒数がかなり減っているため、クラスの統合や他クラスへの振り分けがされており、しばしばクラスメートが変わります。クラス数自体も以前は30クラスほどありましたが今はその半分ほどです。夏季休暇をとる先生方も多く、時間割も週ごとで変更されることがあるので見逃さないように気を付けています。

2. ウラジオストク市内の状況について

・治安状況

当地で日本人が犯罪に巻き込まれたという情報はありません。

・気 候

7月の中頃からようやく暑い日がやってきました。極東連邦大学は海に面しており、授業後や休日に海に行く学生が多くいます。市内から大学の海岸に来ている人も多く、学生以外の年配の方や小さな子どももよく海で見かけます。泳いでいる人も多いですが、ロシア人は体を焼くことが好きなのでビーチで横になっている方もたくさんいます。

連邦大学は海沿いにあるためか蒸し暑い日が多いです。大学内もクーラーがある部屋とない部屋があり、さらに窓がない教室もあるため、熱中症対策として飲み物が必要になります。

・7月の極東連邦大学について

前述したように学生や講師が帰省・夏季休暇でいなくなり、かなり人が減っています。それに伴ってか、構内の食堂が休業に入ったり、図書館の営業時間が午後19時までだったものが17時まで短縮されたりしており、より一層大学の活気がなくなっているように感じられます。

また9月に開催される経済フォーラムに向け、校舎やホテル・寮の改築工事が日々行われています。その影響で7月下旬より再びお湯が出なくなっています。暑いとはいえ蛇口からでてくる水は驚くほど冷たく、お湯の復旧が待たれます。

3. ウラジオストク内の日本関係の行事について

●富山ーロシア極東地方間 チャーター便（7月5日～8日）

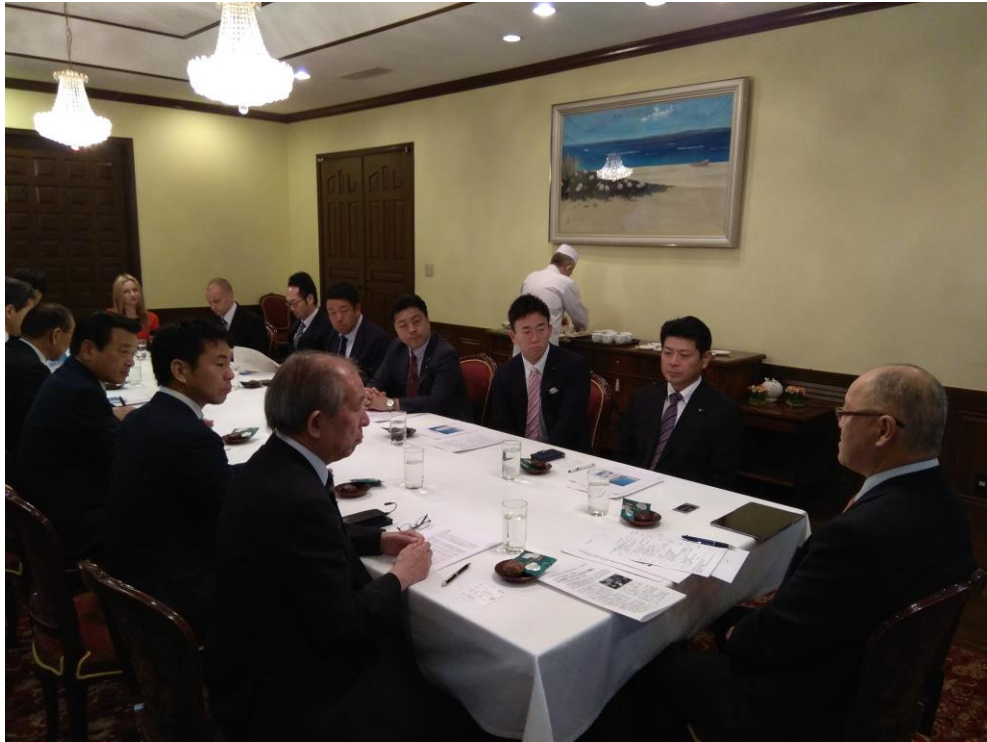
富山空港からロシア沿海地方（ハバロフスク・ウラジオストク）へのチャーター便が3年ぶりに運航され、富山県から81名の方が沿海地方を訪問されました。5日に富山空港を出発・ハバロフスク空港に到着、6日にハバロフスクからウラジオストクへ、そして8日にウラジオストクから富山空港へ帰るという3泊4日の日程となっており、参加された方は沿海地方の観光名所や現地の食事を楽しんでいかれました。

このチャーター便には県庁職員も同乗し、ウラジオストク空港で飛行機を出している航空会社や沿海地方政府を訪問しました。

また県議会の訪問団も同乗しておられ、総領事への表敬訪問、ウラジオストク日本センター訪問のほか、市内の様子や極東連邦大学等を視察されました。



(写真1：オーロラ航空 訪問)



(写真2：議員訪問団 ウラジオストク領事館総領事表敬)

●歌舞伎ショー (28日、29日)

市内劇場にて、日露交流年のイベントの一つとして歌舞伎ショーが行われました。今年は、ソ連で歌舞伎の初公演（2代目市川左團次）があつてから90周年の節目の年となり、日本人だけでなく多くのロシア人の方も見に来ていました。ショーでは4代目市川左團次さんが舞踊劇「鶴亀」を披露し、他にも女形の着替え・化粧の仕方をステージ上で見せたり、子供歌舞伎団の演目があったりと様々なプログラムがありました。ロシア語字幕もついていたので、見に来ていたロシア人の方も大変楽しんでいました。



(写真：3 歌舞伎ショーの様子①)



(写真：4 歌舞伎ショーの様子②)

●大型客船 ダイヤモンド・プリンセス寄港 (31日)

今回のツアーは横浜を出発し、北海道に寄港したのちウラジオストクに寄るもので、このツアーも日露交流年を記念して行われました。今回は現地には泊まらず、一日市内の観光をして日本に戻るという形でした。日本語を話せるスタッフが足りなかったようで、極東連邦大学の学生さんたちもガイドやボランティアとしてお手伝いしていました。



(写真5：ダイヤモンド・プリンセス 外観)



(写真6：市内観光の様子)